



TITLE:

表紙・原稿作成要領・編集後記・  
裏表紙ほか

AUTHOR(S):

---

CITATION:

表紙・原稿作成要領・編集後記・裏表紙ほか. 物性研究 1995, 65(1):  
171-171

ISSUE DATE:

1995-10-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/95608>

RIGHT:

昭和42年11月14日 第四種郵便物認可  
平成7年10月20日発行(毎月1回20日発行)  
物 性 研 究 第65巻 第1号

ISSN 0525-2997

**vol.65      no.1**

# 物性研究

**1995 / 10**

1. 本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、特別寄稿、研究に関連した諸問題についての意見などです。
2. 本誌に投稿された論文については、原則として審査は行ないません。但し、編集委員会で本誌への掲載が不適当と判断された場合には、改訂を求めること、または掲載をお断りすることがあります。
3. 本誌の論文を欧文の論文中で引用される時には、Bussei Kenkyu (Kyoto) 63 (1994), 1. のように引用して下さい。

## 原稿作成要領

1. 原稿は2部（オリジナル原稿及びコピー）提出して下さい。
2. 別刷ご希望の方は、投稿の際に50部以上10部単位で、必要部数、別刷送付先、請求先を明記の上、お申し込み下さい。
3. **ワープロ原稿の場合**

ワープロ原稿を歓迎します。原則として写真製版でそのまま印刷されますので、以下の点に注意して原稿を作成して下さい。（特に希望される場合には、こちらでタイプし直すことも可能ですが、経費の節約のため、できるだけ写真製版できる原稿をお願いします。）

  - 1) 用紙はB5またはA4を縦に使用。（印刷はB5になります。）
  - 2) マージンは、上下あわせて約4.5cm、左右あわせて約4cm。
  - 3) 1ページに本文34行、1行に全角文字で42字。
  - 4) 第1ページは、タイトルはセンタリング、所属・氏名は右寄せにして、余白を十分にとって下さい。
  - 5) 図や表は、本文中の該当箇所に貼り込み、図の下にキャプションを付けて下さい。
  - 6) 体裁については、上記は一応の目安ですので、多少の違いがあってもかまいません。
4. **手書き原稿の場合**
  - 1) 原稿は400字詰原稿用紙に丁寧に書いて下さい。
  - 2) 数式は大きく明瞭に書き、1行におさまらない場合の改行箇所を赤で指定して下さい。
  - 3) 数式、記号の書き方は、Progress, Journal の投稿規定に準じ、立体（ $\square$ ）、イタリック（ $\underline{\quad}$ ）、ゴシック（ $\sim$ ）、ギリシャ文字（ $\gamma$ ）、花文字、大文字、小文字などを赤で指定して下さい。本誌は立体を基本としてタイプされますので、式にも必ず、イタリック、立体を指示して下さい。また、著者校正はありませんので、特に区別しにくい文字や記号なども赤で指定して下さい。
  - 4) 図は写真製版できるもの（こちらではトレースはいたしません。）を図の説明と共に論文末尾に揃え、図を入れるべき位置を本文の欄外に赤で指定して下さい。

## 編集後記

金木犀の馥郁たる香りが迎りに漂う季節になりました。私が編集委員会の末席を汚すようになって早や半年が経ったことになります。統計力学の基礎にはおおいに関心がありますが、こと「物性論」となると全くの素人でわからないことばかり。この間何のお役にも立てず仕舞いで、編集委員の方々、読者の皆様に対し、いつも申しわけなく思っています。

そんな私が今月は、編集後記を書くという大役を仰せつかることになってしまいました。困り果てていたところへ、基研所長の長岡洋介先生の筆になる碓井恒丸先生追悼記事を読者の方々に先んじて読ませて頂く機会に恵まれ、大変大きな感動を受けました。

残念ながら私には、碓井先生との個人的な面識を得る機会は一度もありませんでしたが、もう20年以上も前に、岩波講座『現代物理学の基礎2. 古典物理学II』で碓井先生の書かれた熱力学の章を読んだ時の感動は、今でも鮮かに私の脳裏に残っています。勿論、それを読む以前にも何度か熱力学は勉強したはずですが、その微妙なニュアンス、運用の難しさと理論の「現象論的」性格のゆえに、そのエッセンスがつかみきれず、難解で「鬱陶しい」分野になっていました。それゆえの「敬遠・反発」に加え、クリアカットで「深遠な」ミクロ物理学の「最先端」に憧れる若者の常(?)として、当時の私は、「熱力学なんて古い学問は今さら勉強し直してみても、骨董趣味くらいの意味しかあるまい」などと、今から思うと恥かしさに顔から火の出そうな「若気の至り」、傲慢不遜・軽佻浮薄な偏見に囚われていました。碓井先生による上記の本の熱力学には、その極めて簡潔な記述にもかかわらず、このような私の迷妄を吹き飛ばすに足る強力な説得力があったのです。そのお蔭で私の「熱力学嫌い」はなくなりました。

以来、捉え難い自然・「現象」の中からその適切な記述に必要な概念(熱力学なら、温度、温度平衡状態、エントロピー等々)をどのように汲み出して来るか、という問題を考える時にはいつも、これを重要な「お手本」として思い返すと同時に、「碓井恒丸」とはどういう物理学者なのだろうか?との思いを抱き続けてきました。だから、情報概念を核として数理諸科学の交流を企図したある事典の編集に加わって、物理関係の項目の執筆者選定を任された時、「熱力学」の執筆依頼先にまず碓井先生を頭に浮かべたのは、私にとってはごく自然の成り行きでした。残念ながら、既にこの時点で先生の病状は思わしくなく、私の希望は叶う由もなかったのですが…。

今回、長岡先生のお書きになった追悼文を読ませて頂くと、碓井先生御自身の専門の“up-to-date”な研究と熱力学のような「古典」への深い造詣との間の関係を理解する鍵が、「現象論的アプローチの位置付け」という重要な問題にあることが非常によくわかります。更に、長岡先生の温かい筆を通して碓井先生の生い立ちや学問研究以外の場面でのふくらみのある人となりに接すると、学問研究、物理学の研究と、人間としての人格形成、生き方の問題との間にある「目に見えない」深い結びつきということに思い至ります。今自分のやっている研究は単なる「専門」の仕事というだけでよいのだろうか?果たして人間性を豊かにするような学問研究につながり得るのだろうか?…と。

(I. O.)

---

物 性 研 究 第 65 卷第 1 号 ( 平成 7 年 10 月号 ) 1995 年 10 月 20 日 発行

発行人 村 瀬 雅 俊 〒 606 - 01 京都市左京区北白川追分町  
京 都 大 学 湯 川 記 念 館 内

印刷所 昭 和 堂 印 刷 所 〒 606 京都市百万辺交叉点上ル東側  
TEL ( 075 ) 721 - 4541 ~ 3

発行所 物性研究刊行会 〒 606 - 01 京都市左京区北白川追分町  
京 都 大 学 湯 川 記 念 館 内

年額 19,200 円

---

## 会員規定

### 個人会員

#### 1. 会 費：

当会の会費は前納制になっています。したがって、3月末までに次年度分の会費をお支払い下さい。

<b>年会費</b>	1st Volume (4月号～9月号)	<b>4,800円</b>
	2nd Volume (10月号～3月号)	<b>4,800円</b>
		<b>計 9,600円</b>

お支払いは、郵便振替でお願いします。当会専用の振替用紙がありますので、下記までご請求下さい。郵便局の用紙でも結構です。通信欄に送金内容を必ず明記して下さい。

郵便振替口座 **京都 01010-6-5312**

#### 2. 送本中止の場合：

送本の中止は Volume の切れ目しかできません。次の Volume より送本中止を希望される場合、できるだけ早めに「退会届」を送付して下さい。中止の連絡のない限り、送本は継続されますのでご注意下さい。

#### 3. 送本先変更の場合：

住所、勤務先の変更などにより、送本先が変わる場合は、必ず送本先変更届を送付して下さい。

#### 4. 会費滞納の場合：

正当な理由なく 2 Volumes 以上の会費を滞納された場合は、送本を停止することがありますので、ご注意下さい。

### 機関会員

#### 1. 会 費：

学校、研究所等の入会、及び個人でも公費払いのときは機関会員とみなし、**年会費 19,200円** (1 Volume 9,600円) です。学校、研究所の会費の支払いは、後払いでも結構です。申し込み時に、支払いに書類（請求、見積、納品書）が各何通必要かをお知らせ下さい。当会の請求書類で支払いができない場合は、貴校、貴研究所の請求書類をご送付下さい。

#### 2. 送本中止の場合：

送本の中止は Volume の切れ目しかできません。次の Volume より送本中止を希望される場合、できるだけ早めにご連絡下さい。中止の連絡のない限り、送本は継続されますのでご注意下さい。

**雑誌未着の場合：発行日より 6 ヶ月以内に当会までご連絡下さい。**

### 物性研究刊行会

〒606-01 京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内  
電話 (075)722-3540, 753-7051  
FAX (075)722-6339

物 性 研 究 65-1 (10月号) 目 次

○碓井先生とその時代……………	長岡 洋介…………	1
○2バンド電子系の熱力学ポテンシャル……………	小野 正利…………	25
○修士論文 (1994年度)		
CeTSi <sub>2</sub> (T=Ni, Pt) に於ける近藤効果 ……………	伊藤 卓…………	42
三人ゲームにおける協力の発生とその進化……………	秋山 英三…………	71
計算物理学および統計力学的手法をもちいた一次元交通流の研究 —交通渋滞の統計力学—……………	湯川 諭…………	117
○編集後記……………		171

物 性 研 究 65-1 (10月号) 目 次

○碓井先生とその時代……………	長岡 洋介…………	1
○2バンド電子系の熱力学ポテンシャル……………	小野 正利…………	25
○修士論文 (1994年度)		
CeTSi <sub>2</sub> (T=Ni, Pt) に於ける近藤効果 ……………	伊藤 卓…………	42
三人ゲームにおける協力の発生とその進化……………	秋山 英三…………	71
計算物理学および統計力学的手法をもちいた一次元交通流の研究 —交通渋滞の統計力学—……………	湯川 諭…………	117
○編集後記……………		171